

核データ情報専門部会熱中性
子散乱WG第2回会合議事録

日時 昭和44年8月8日(金)午後1時~5時20分
場所 原研(東海研)第5会議室
出席者 角谷, 中原, 千原, 坂本, 飯島, 大竹, 中島, 松岡
以上 8名

配布資料

1. 核データ情報専門部会熱中性子散乱WG第1回会合議事録
2. Data SheetのComputer Indexing (坂本)
3. JAERI-memo 3165 (unpublished) (千原)
4. M. Nelkin, Effective Field Approximations
in Classical Liquids (千原)

議長 大竹 巖

議事

1. 前回議事録確認

出席者の欄に次を追加する。オブザーバー, 土橋, 柴

2. 一般報告

飯島氏より7月11日の本委員会についての報告があった。中原氏より Evaluation Report の出版作業の進行状況について大要次のような報告があった。紛失していたカーネルのリストは復元して印刷に出した。図のトレースの校正がばらばらと来始めている。筆者校正が最善であるが、校正刷りがばらばらと来ることと、執筆者が何人もいるため、郵送していると日数もかかるので、こちらで校正することで諒承して頂きたい。刷り上りは9月20日の予定だったが、1ヶ月ほど遅れそうである。

校正の仕方について議論が行なわれた。図の校正は1回しかないので一寸問題であるが、一応原研側で校正をする。本文については第1校は原研で行ない、第2校は筆者が行なうということになった。

3. 今年度実行計画の作業報告

(イ) 文献調査

坂本氏より大要次のような報告があった。Bibliography for Thermal Neutron Scattering の第2版が出来上ったので1部づつ発送した。もっと必要な人は部数をお知らせ頂きたい。

坂本氏より Data Sheet の Computer Indexing に関する原案の説明があった(資料2)後、討論が行なわれた。Key Words System について議論が集中した。将来Key Words System をいじる可能性があり、その時 Store Tape を改変しなくて済むように、また sorting の時間を節約する上でも、Store Tape と Sorting Card System を別に作っておいて、sorting はカードで行なわせるようにしたらとの提案が千原氏よりあった。Comments も入れるようにしたらどうかとの発言が飯島氏よりあった。

具体的な技術上の問題がからんでいるので、上記の事柄については計算センターの専門家と相談して更に検討するとの発言が坂本氏よりあった。

(ロ) D₂O の断面積

中原氏より大要次のような報告があった。他の仕事で忙しかったので、具体的な計算はまだしていない。角谷氏が委員になられたので、作業の進め方は考え直した方が良くと思う。今迄重水は角谷氏が中心になってやっていたので、やはり角谷氏にやって貰うのが良く思う。

角谷氏より THRUSH について発言があり、最終チェックはまだ済んでいないとのことであった。

計算費は取り敢えず CDC に 90 万円角谷氏の名前でつけることになった。THRUSH の計算もこの JOB の中で行なうことにした。

温度については 600℃ 位のデータがあるので、これでチェックして、うまく行ったら、50℃ 刻み位でプロダクションしてみること

になった。

ENDF/Aのデータを用いて計算したDが合わないのはENDF/Aのデータが良くないのではないか、角谷氏の計算では合うとの発言が角谷氏よりあった。

(1) Doppler Broadened Cross Section

飯島氏より計算式についての説明があった。またPuの振動数分布をどうやって決めたら良いかとの問題提起があった。振動数分布としてデバイを用いる場合についての報告もあった。

個数密度としてはPuO₂は非常に少ないのでむしろUO₂の振動数分布を用いた方がよいのではないかとの発言が坂本、中原氏よりあった。この場合UO₂全体の振動数分布はChalk Riverで計算しているが、Uだけの振動数分布を決定する問題が残されていることが指摘された。

飯島氏より、UO₂について検討してみる。またデバイによる計算もやってみるとの発言があった。

(2) その他

中原氏より大要次のような発言があった。当W.G.の計画にはないが、原研の仕事としてZrHxについて計算する必要が出てきた。原研のNSRR W.G.で作業を行なうが、何かまとまったら、この会合で発表する。高温のH₂Oについての計算もやってみる。

4. 液体のDynamicsに関する話題

千原氏よりKinetic Equationによる液体のDynamicsの解析法及びS(k, ω)の計算法等についての解説があった。(資料3, 4)

次回予定

関谷氏の都合を聞いて、それによって決めることになった。